

スギ花粉ペプチド含有イネ(7Crp#242-95-7)の栽培  
(栽培実験期間:平成20年度)

	確認項目	確認結果
交雑防止措置について	○交雑防止措置について	本栽培実験では、隔離距離による交雑防止措置を行っています。同種栽培作物までの距離が30m以上(約45m)ある事を確認しました。(研究所の外の同種栽培作物のほ場との距離は約750m)。
	○選定場所について	本栽培実験の実験区画の開花期の推定平均風速の算出値が毎秒3mを下回る事を確認しました。また、台風等の特段の強風の対応が必要なかった事を確認しました。
	○開花前の低温により交雑の可能性が想定される場合の措置について	本栽培実験では本措置を講じる必要がない事を確認しました。
	○モニタリング措置について	交雑の有無について、モニタリング用の指標作物の種子を20,644粒調査した結果交雑粒は確認されませんでした。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について	実験種子を密閉容器に入れ他の種子と分別した管理、密閉容器を使用した運搬による拡散防止を実施している事を確認しました。また、平成20年7月3日以降イネのワラ等の鋤込みによる不活化処理終了の21年1月14日まで実験区画に防鳥網を設置し、野鳥等の食害による拡散防止を行った事を確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について	本栽培実験の実験区画の作業に使用した機械等を、実験区画外搬出の際に洗浄等を行った事を確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理等について	収穫物については、ほ場で収穫後、籾の状態ですべて密閉容器に入れた後、隔離ほ場内調査室で他の作物と区分して保管している事を確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について	ワラ等を、平成20年10月23日にほ場内で裁断し一か所にまとめてビニールシートをかけてほ場で保管後、越冬試験が終了した21年1月14日に、保管していたワラ等及び地下部を実験区画であるほ場内に鋤込みし不活化処理を行った事を確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて	本栽培実験区画では、21年度に作物の栽培が実施されないので本栽培実験と同様の取扱いを行う必要がない事を確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について	計画書が平成20年5月2日に公表された事を確認しました。
	○説明会の開催等について	説明会が平成20年5月17日に開催された事を確認しました。また、本栽培実験についての問い合わせの対応、希望者に対し本実験への見学の受け入れを行った事を確認しました。情報提供のフォローアップについても適切に対応していた事を確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について	説明会の開催等、本実験の経過について36件の情報がホームページに掲載された事を確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について	本栽培実験での栽培、処理の終了及びモニタリング結果について、平成21年1月30日にホームページに掲載された事を確認しました。栽培実験結果については21年3月5日の21年度説明会にて発表された事を確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	○栽培実験に係る管理体制の整備について	栽培実験責任者、作業管理主任者、情報提供主任者を指名して管理体制を整備している事を確認しました。

農業生物資源研究所 隔離ほ場



平成20年10月7日撮影  
図1